

No.	氏名	生年	没年	出身地	
1	ともの 伴野(友野) 友彦	1747	1834	入澤村 現:佐久市入澤	「庶民の教育に尽くした江戸後期の心学者」 神官の家に生まれ、詩や書に優れていました。京都で石門心学を学んだ後、故郷に心学の道場である成章舎を開いて、子どもたちの教育や農民の指導にも力を注ぎました。教えを受けた人は500人にも上りました。(95字)
2	こばやし ぶんそ 小林 文素	1769	1826	田野口村 現:佐久市田口	「日本で唯一現存する解体人形の製作者」 代官所に仕えて江戸を往復し、『解体新書』と出会います。その図をもとに人間の臓器を再現した精巧な人形を作りました。この人形は、日本の解剖学史に残る、現存する唯一の貴重な人形です。(88字)
3	きうち ほうけん 木内 芳軒	1827	1872	下県村 現:佐久市岸野	「塾を開き多くの門人を育てた漢詩人」 江戸で佐藤一斎(さとういつさい)や梁川星巖(やながわせいがん)ら著名な師に学び、佐久間象山(さくましようざん)とも親しく交流しました。帰郷後は塾を開き、依田稼堂(よだかどう)ら500人以上の弟子を育てました。若き日の渋沢栄一も漢詩の師として彼を慕い、親交を深めました。(96字)
4	ひだい だんえもん 比田井 弾右衛門	1840	1915	天神林村 現:佐久市協和	「山林行政に力を注いだ初代協和村村長」 明治維新後、村の山林が国有化される中、県と交渉を重ねて蓼科山麓の広大な村有林を守り、村の財政や生活を支える基盤となりました。また、学校や病院の設立に尽力し、村会や郡会議員としても広く活躍しました。(102字)
5	きたはら じょうえ 北原 丈衛	1880	1968	上伊那郡長藤村 現:伊那市高遠町長藤	「南佐久郡立農学校を廃校の危機から救った校長」 生徒不足で廃校の危機にあった南佐久郡立農学校(現在の佐久平総合技術高校)に校長として赴任しました。「率先垂範」を教育理念に掲げ、学校を再建し、文部省から全国の実業学校の中で優良校として表彰されました。(100字)
6	いちかわ ゆういちろう 市川 雄一郎	1891	1950	中瀬村 現:佐久市中込	「郷土史研究に力を尽くした教育者」 長野県師範学校を卒業し、中込尋常高等小学校の先生として赴任しました。桜井尋常高等小学校をはじめ、佐久地方の学校で校長を務めました。教職の傍ら郷土史を研究し、『役筆筈から見た下小田切村』などの本を残しました。(103字)
7	いで ゆきよし 井出 幸吉	1891	1965	畑八村 現:佐久穂町畑	「広域水道建設に尽力した佐久水道の父」 佐久で集団赤痢が流行する中、畑八村長として村内の水源を提供し、農村地域では初の地方広域水道を建設しました。この功績から、野沢保健所長の瀬下良一郎とともに「佐久水道の父」として称えられています。(96字)
8	ガブリエル・ディアス	1919	2010	コロンビア国ボヤカ県トカ市	「宣教と幼児教育に長年貢献した神父」 フランススコ会の神父として1953年に来日し、野沢地区にカトリック教会とカトリック幼稚園を設立しました。宣教師としてキリスト教を伝える一方、園長として個性あふれる幼稚園活動を展開し、多くの園児や地域の人々から親しまれました。(109字)
9	わたなべ しずか 渡辺 静	1923	1945	協和村 現:佐久市協和	「特攻に散ったプロ野球選手」 小諸商業学校(現小諸商業高校)の四番打者として活躍しました。プロ野球の朝日軍に入団しますが、学徒出陣で陸軍に入隊します。特別攻撃隊を志願し、第165振武隊として知覧特攻基地から出撃し、特攻で命を落としました。(102字)
10	ささき まさこ 佐々木 方子	1924	2000	臼田町 現:佐久市臼田(兵庫県神戸市生まれ)	「佐久の音楽の裾野を広げたピアノ教師」 音楽の教員として高校に勤めた後、臼田の自宅でピアノと声楽を多くの子どもたちに教えました。「音楽を専門的に学ぶなら佐々木先生」と評され、国内外で活躍する教え子を数多く育成し、佐久の音楽の発展に大きく貢献しました。(105字)
11	もろさわ ようこ	1925	2024	本牧村 現:佐久市望月	「女性史研究家であり、人間解放を唱えた思想家」 1960年代からジェンダー視点で歴史を掘り起こし、『信濃のおんな』は地域女性史研究の先駆けとして評価されました。郷里に「歴史を拓くはじめの家」を開設し、志を同じくする人々と共に「志縁」による人間解放を唱え、実践しました。(105字)
12	はらだ きしこ 原田 岸子	1926	2014	北牧村 現:小海町	「やまびこ国体3位入賞に導いた新体操指導者」 野沢南高校などで長年新体操部の指導を行い、1978年やまびこ国体で少年女子チームを第3位に導きました。自他共に厳しく人を伸ばす指導法で知られ、地域の子どもたちや女性に体操を広め、健康意識の向上に貢献しました。(102字)
13	いで まごろう 井出 孫六	1931	2020	臼田町 現:佐久市臼田	「時代を切り取り、人間を描き続けた作家」 「戦争を二度と起こしてはいけない」という強い信念を生涯持ち続け、恵まれない状況の中で必死に生きる有名無名の人々取材して、その生き様を伝えました。作家として小説やルポルタージュなど50を超える著作を残しました。(104字)
14	やまかわ けいすけ 山川 啓介	1944	2017	小海町	「多彩に活躍した作詞家、脚本家、舞台構成作家」 舞台構成や訳詞などの他、NHK「おかあさんといっしょ」でも「北風小僧の寒太郎」をはじめ膨大な数の作詞を手がけ、着ぐるみ人形劇の脚本も担当しました。「さく・わが市(まち)」や学校校歌など地元にも歌詞をたくさん残しました。(108字)
15	つちや りゅういち 土屋 竜一	1964	2020	佐久市塚原	「難病と闘い続けたシンガーソングライター」 デュシェンヌ型筋ジストロフィーと闘いながら、ラジオパーソナリティやシンガーソングライターとして活躍しました。車いすのソングバードと呼ばれ、人工呼吸器を装着してからも、楽曲制作や執筆活動を続けました。(99字)